

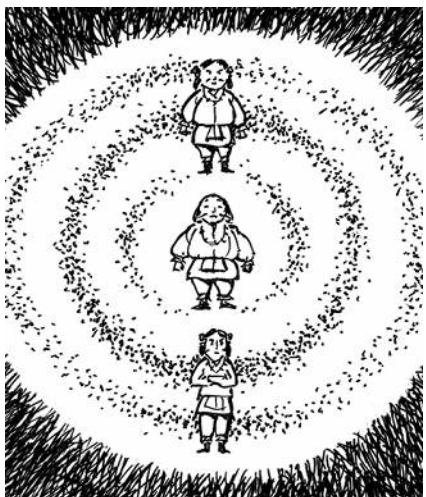
神々の古事記
冠者殿社

「天地の始まり」

宇宙の初め、天も地も渾沌としていた時、高天原と呼ばれる天の高いところに神が次々と現れました。

最初の神は、天之御中主神、次に高御産巢日神（高皇産靈神）、神御産巢日神（神皇産靈神）。

そして、地が浮いた油のように頼りなく、くらげのように漂っている所に、葦が芽ぶき二柱の神が現れました。現れた神々は独神で、すぐに身を隠されました。この天と地の始まりに現れました五柱の神を別天津神と呼びます。



廣峯神社の本殿の裏に回ると、姫路市の重要文化財に指定されています。冠者殿社があり、この御社に高皇産靈神と神皇産靈神をお祀りしています。

高皇産靈神は、国譲りや天孫降臨、神武東征でも活躍されており、別名を高木神と言います。神皇産靈神は、大国主神の受難や国づくりに登場し、少名毘古那神の親神でもあります。

高天原を代表するこの二神は、どちらもモノを生み出す「産靈」のご神威によって、生産と生成を司る神様として崇められており、古くから農耕の守護神、豊作、安産、学業成就、縁結び、厄除け、開運招福等のご利益を願う人が参拝されています。